



高丸だより

臨時号 令和5年9月

全国学力・学習状況調査の結果報告

4月18日に全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われた「全国学力・学習状況調査」の調査結果が文部科学省から提供されました。主な結果をお知らせするとともに、本校の課題、今後の取組についてご報告させていただきます。

なお、6年生児童一人一人の結果については、お子さんを通じて、6年生の保護者の皆さんにお渡ししています。



令和5年度全国学力・学習状況調査の調査問題・正答例・解説資料

<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.htm>

国語

結果

●国語科のすべての領域（「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」）において、結果が良好でした。

●学校での米作りの問題点と解決方法について、「田んぼの様子を記録したカード」と「農家の田んぼと学校の田んぼの雑草のグラフ」を読み取り、記述する問題の結果は良好でした。

この設問には、グラフとカードそれぞれから分かることを書く等の条件が設定されていましたが、誤答を分析すると、グラフからの情報、カードからの情報の一方しか取り上げていない解答が多く見受けられました。

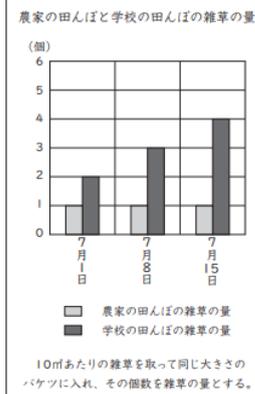
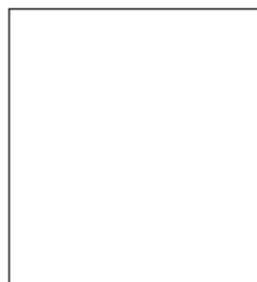
【川村さんの文章】

学校の田んぼで取り組んだ米作りの問題点とその解決方法

今年の米作りでは、たくさんのお米をしゅうかくすることができました。しゅうかくまでに、いくつかの問題がありました。その中でも特に伝えたい問題点とその解決方法について説明します。

5月下じゆんに学校の田んぼになえを植えました。6月の終わりまで、週に1回、グループの3人で雑草取りを続けたのですが、ア**い**がいに雑草が生えてきて、とてもこまりました。そこで、雑草の量について、農家の田んぼとイ**く**らべてみました。ウ**き**かんは7月1日から15日までです。

右のグラフは、その結果をもとにして作ったものです。



このようなことに取り組み、9月の下じゆんにお米をしゅうかくすることができました。

二 川村さんは、選んだカードをもとに、次の「川村さんの文章」の問題点とその解決方法について書くこととして書かれています。あなたが川村さんなら、どのように書きますか。あとの条件に合わせて書きましょう。

に学校の米作りの
に入る内容を

●「運動」と「食事」についての複数の資料を読み、情報を整理した上で、健康に過ごすために自分ができそうなことを考えてまとめるという記述式の問題の結果は良好でした。

この設問にも「運動」と「食事」両方について分かったことを書くという条件が設定されていましたが、一方しか取り上げずに誤答になったケースが見受けられました。

●学校ボランティアにインタビューし、その発言を取り上げて、自分の考えをまとめる記述式の問題の結果は良好でした。

●漢字や送り仮名の問題の結果は概ね良好でした。(意外・期間・比べて)

●敬語を理解しているかどうかをみる問題の結果は良好でした。

・〇〇さんが(おっしゃった)ことを、もう一度(うかがって)いいですか。

今後の取組について

●例年、記述式問題に苦戦する児童が多く、正答率が低いのが全国的な課題です。しかし、本校では「記述式」問題の結果が良好でした。ただし、複数の条件をクリアできていない解答も多く見受けられました。

本校では全学年で、授業の中に「書くこと」を取り入れています。今後もそれを継続して取り組むと共に、「量的な条件」や「質的な条件」のもとで文章を書く機会を増やしていきます。

(量的な条件)

- ・字数という条件……〇字以内でまとめる
- ・時間という条件……〇分以内でまとめる

(質的な条件)

- ・相手という条件……1年生に、家族に
- ・場面という条件……学級で、算数の授業で
- ・状況という条件……方法を教えよう、作戦を考えよう
- ・要件という条件……事例を3つ入れる、3段落にわけ

複数の条件をクリアして書くことは難しいですが、一般社会では制約や条件がある中で的確に文章表現することが求められます。小学生の段階から、ある一定の条件をクリアしながら書くことができる力を培っていきます。

●児童質問紙調査で、「読書は好きですか」という質問に肯定的な回答をした児童が多かったです。また、読書時間も長く、図書館を利用する回数も多かったです。

コロナ禍の影響もあり、令和4年の全国の不読率(1か月の間に本を1冊も読まない児童生徒の割合)は小学生6.4%、中学生18.6%、高校生51.1%と、いずれの学校段階でも数値目標は達成されていない状況にありました。不読率の低減

は全国的な問題ですが、本校での不読率は低かったです。

今回の学力調査で国語の結果が良好だったベースには読書活動の充実があります。今後も学校司書と連携し、教科学習の中で、調べ学習を行ったり、並行読書を行ったりし、授業の中で学校図書館を活用していきたいと思います。

また、学校と家庭が連携し、音読する機会を増やすことも大切です。今後も読書活動を推進し、読書好きな児童を更に育てていきます。

算数

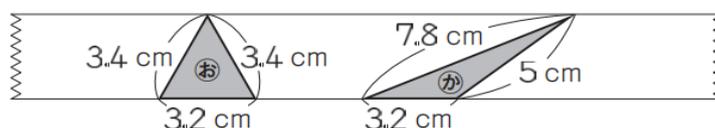
結果

●算数科の内容には、「A数と計算」、「B図形」、「C測定」（下学年）、「C変化と関係」（上学年）、及び「Dデータの活用」の五つの領域があります。「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」の結果は概ね良好でしたが、「データの活用」の結果には課題がありました。

●問題形式には「選択式」「短答式」「記述式」の3種類ありますが、どの形式の問題の結果も概ね良好でした。国語同様、記述式問題への抵抗感は感じられませんでした。

●幅の等しいテープを直線で区切って作った二つの三角形の面積についての問題（図形領域）の全国正答率は大変低かったです。本校も例外ではありません。テープの幅が二つの三角形の高さであり、底辺も等しいので「面積は等しい」というのが正解ですが、「このままでは比べることができない（高さが書かれていないため）」という誤答が多かったです。

(4) えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㊦と㊧の2つの三角形をつくれます。



上の㊦と㊧の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の 1 から 4 までの中から1つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

- 1 ㊦の面積のほうが大きい。
- 2 ㊧の面積のほうが大きい。
- 3 ㊦と㊧の面積は等しい。
- 4 ㊦と㊧の面積は、このままでは比べることができない。

● $66 \div 3$ の筆算の仕方を説明した図を基に、筆算の商の十の位にあたる式を選ぶ問題（数と計算領域）の正答率が低かったです。筆算の商の十の位に立てた「2」が、 $60 \div 3$ の計算をした結果を表していると捉えるためには、図と関連付けて考察することが必要です。

【けんたさんの説明】をもとにすると、 $66 \div 3$ の計算を、下のよう
考えることもできます。

$$\begin{aligned}
 66 \div 3 &= (60 + 6) \div 3 \\
 &= \underbrace{60 \div 3}_{\text{あ}} + \underbrace{6 \div 3}_{\text{う}} \\
 &= \underbrace{20}_{\text{え}} + 2 \\
 &= 22
 \end{aligned}$$

【 $66 \div 3$ の筆算】の手順2で十の位に
たてた「2」は、上の式のあ、い、う、えの
どの計算をした結果を表していますか。1つ
選んで、その記号を書きましょう。

手順2

$$\begin{array}{r}
 2 \\
 3 \overline{)66} \\
 \underline{6} \\
 6
 \end{array}$$

● データの活用の領域の結果には課題がありました。二次元表の意味の理解が十分ではなく、二次元の表から条件に合う数を読み取ることができていない解答が多かったです。

アンケート調査の結果 (人)				
		30分以上の運動をした日数		合計
		2日以下	3日以上	
運動	好き	85	26	111
	あまり好きではない	10	2	12
合計		95	28	123

30分以上の運動をした日数が2日以下の人の中でも、運動が好きな人のほうが、あまり好きではない人より多いことは、左の表の中にあるどの数とどの数を見るとわかりますか。

下のア から エ までの中から1つ選んで、その記号を書きましょう。

ア 26と2
イ 85と10
ウ 85と26
エ 111と12

今後の取組について

● 図形の学習では、作図の方法や面積の求め方を理解し、身に付けることで終わるのではなく、図形を構成する要素に注目して作図したり、面積の求め方を考察したりする活動をしつかりと行っていきます。

● 二次元表の問題は今までも全国学力・学習状況調査で出題されてきました。そして、その困難性が国立教育政策研究所から何度も指摘されてきました。今後、二次元表の学習においては、自分たちの身近な生活に役立つ教材化を図ります。そして、目的をもって情報を収集・整理し、整理した表を二次元表に表現し直す活動を通して、二次元表のよさに気付くことができるようにすることをねらいとした学習に取り組んでいきます。

● 今後も授業の中で、立式→解答で終わるのではなく、式・言葉・数字・図などを使って、求め方や考え方を記述したり、ペアトークで互いに説明したりする活動を積極的に取り入れていきます。